

「シジュウカラの孵化(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

5月23日の午前中から、シジュウカラの孵化が始まった。北軽井沢に架けた巣箱には、高感度のネットワークカメラが内蔵されていて、子育ての様子を東京から動画で観察できる。また、すべての画像は、サーバーに動画で記録されているので、重要な一瞬をあとからでも確認することができる。今回は、最初の1羽目の孵化の様子を見てみよう。



午前 11:08 ; 9個とも、まだ孵化していない。卵の表面に「ひび」も見られない。



午前 11:19 ; 卵の一つにひびが入り始めた。親鳥もそれに気づき、やや落ち着かない様子。



午前 11:25 ; 1羽目が孵化した模様。親鳥が卵の殻を掘りだして、その後殻は食べてしまった。ヒナを傷つけない為、そしてカルシウム源にもなるのだろう。



午前 11:41 ; 親鳥(メス)が巣口まで出て行った。巣口でオスに餌をもらうためである。産座を離れたので、初めてヒナが見えた。元気に「寝返り」を打って、早くも口を大きく開けて「ヒナらしく」ふるまっている。エサのほとんどは幼虫(小型のシャクガの幼虫が多い)である。ヒナが小さいうちは、幼虫を丸飲みできないので、親鳥は幼虫の体液を絞るようにして与える。巣立ちは6月10日前後だろう。成長が楽しみだ。